

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	ゼロカーボンシティ推進特別委員会
参 加 者	委 員 長 加藤 嘉哉 副委員長 廣重 敦 委 員 大原 昌幸 中根 善明 野島 さつき 近藤 敏浩 原 紀彦 蜂須賀 喜久好 原田 範次
視 察 日 時	令和4年5月12日（木）10:00～11:30
視察先・概要	埼玉県所沢市 人口：343,752人 世帯数：165,875世帯 面積：72.11 k m ²
視 察 項 目	「マチごとエコタウン所沢の実現に向けた取組」について
視 察 概 要	1 取組内容 (1) メガソーラー所沢 ・ 2014年3月に一般廃棄物最終処分場の上に設置 ・ 発電出力1,053キロワット、年間で一般家庭291世帯分の発電 ・ 売電収入をまちエコ推進基金に積み立て、道路照明のＬＥＤ化、市民が太陽光発電設備を導入する際の補助に活用 (2) フロートソーラー所沢 ・ 2017年3月に県のプロジェクトと連携して調整池に設置 ・ 発電出力386キロワット、年間で一般家庭145世帯分の発電 ・ 売電収入はメガソーラー所沢と同様 (3) 公共施設の屋根貸し ・ 小中学校の屋根を民間事業者に貸し出し、太陽光発電設備を導入 (4) スマートハウス化推進補助金 ・ 市民、事業者等が省エネ機器を導入した際に一部を補助 ・ 昨年度実績は1,062件、約6,300万円の補助、432トンのＣＯ₂を削減 (5) ＥＶパッカー車の導入 ・ 2019年に全国で初めて導入 (6) ＥＶ充電器の設置 ・ 急速充電器2台、普通充電器1台を設置 (7) ところざわ未来電力 ・ 2018年5月に設立 ・ 発電した電気を市内の公共施設で使用し、2013年度と比較して、電気使用に伴う温室効果ガス排出量を約84％削減 2 今後 ・ 市民に対して脱炭素施策の周知が行き届いていないため、気候市民会議を開催

所 感 ※視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・所沢市は、人口規模、海がない地理、地域電力会社を有するといった本市に大変似た状況で、大変シンパシーを感じた。本市同様、内陸に位置するため、再エネの基軸をソーラーパネル発電に置いており、一般廃棄物最終処分場を利用したメガソーラー、調整池に浮島方式のソーラーパネルを設置する等、積極的な展開をしているところはぜひ参考にしたい。また、小水力は、水道事業部署に責任を持たせるようなやり方に変えないと役所内での押し問答に終始し、進まないという示唆は大変参考になった。 ・所沢市はソーラーシェアリングを事業化している。農地に支柱を立てて、上部空間に太陽光発電設備を設置し、農業と発電事業を同時に行っている。本市には耕作放棄地が570ヘクタールほどあり、農業発展と農地を活用した電力を生産することが必要である。 ・メガソーラー、フロートソーラーの売電収入を脱炭素に向けた事業への投資として使用しており、本市にもこの体制が必要である。 ・補助金による市域全体の再生可能エネルギー利用や省エネの促進などの取組がすばらしいと感じた。特に、市域における再生可能エネルギーの積極的な導入を行うために、フロートソーラー所沢、メガソーラー所沢の取組を本市でもぜひ検討されたい。また、パッカー車のEV化は、市民へのアピールにもなるいい取組と感じたため、併せて導入の検討をされたい。 ・様々な環境を考えるイベントに市民が生き生きと取り組んでいるとの説明があり、環境に対する市民の意識の高さがうかがえた。本市でも、例えば、CO₂削減効果を目に見える形で示す等の方策を取り、より多くの市民に関心を持ってもらいたいと考える。また、全庁挙げての取組とするため、それぞれの課でCO₂削減のために何ができるかを考え、ゼロカーボンシティ推進課で集約すべきだとも感じた。そして、技術革新に対するアンテナは高くあるべきだが、フロートソーラー所沢の説明を聞き、検討に値するのではと感じた。 ・市民の取組として、町内で不用品バザーや廃油回収、家具や陶器のリユース、ペットボトルをなくすための取組として、庁舎内の自販機をなくし、給水機を設置するなど参考になった。市民の省エネ意識醸成のため、エコファミリー制度として省エネチェックシートを夏休みに配布し、すばらしい取組を評価するなど、本市でもすぐできそうだと感じた。メガソーラーやフロートソーラー、ソーラーシェアリングでの売電益を基金に積み立て、スマートハウス化推進補助金等に充てており、発電効率を高めることで、市の脱炭素化事業に結びついている点は見習いたい。 ・市役所の事務事業からの排出ガス削減について、将来の数値目標を定めること、公共施設の改築時には消費電力の減少や創エネにつながるネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）化を推進していくこと、バイオマス発電など地産電力の導入、ヒートアイランド現象対策
--	---

	にもつながる街路樹の増加や、公園の整備、緑のカーテン等々、緑化の推進と数値目標を定めることを提案する。 ・所沢市は、人口が34万人、海にも面していないことなど本市に近い ため、エコタウン実現に向けた取組は参考になった。一番参考になったのは、廃棄物処分場や調整池の上にソーラーパネルを設置していたことで、処分場や調整池は本市にもあり、条件が合えば本市でも導入できるのではないかと感じた。特に調整池の上に設置するフロートソーラーは、水の上に設置することで、太陽光パネルが熱くなりすぎることを防ぐ効果もあり、発電効率がいい状態を維持できるとのことであった。また、市民の行動変容の点では、もったいない市を開催したり、みどりのパートナー制度があり、その参加者を増やしていくことを具体的な数字を示して行っていることが重要だと感じた。目標を立てて実行しても、考察がなかなかできないことが多いと感じるため、考察して次につなげることが必要である。目標を立てるという意味でも具体的な数字目標を立てて、毎年発表し、考察していく所沢市の取組を取り入れる必要がある。所沢市はそれができているので、市民の行動変容の観点では参考にする必要があると感じた。
委員長の総括	マチごとエコタウン所沢について、地域新電力会社を設立し、フロートソーラー、メガソーラー等での売電収入を脱炭素事業に投資している。EVパッカー車の導入は、本市においても検討する価値があると感じた。市民の取組として、町内において不用品のバザーを開催したり、廃油の回収、ペットボトルごみをなくす取組として給水機の設置等、身近にできる取組は参考になった。脱炭素に向けて、取組に対して具体的な数値目標を出している。本市においても、項目別に目標数値を提示する必要があると考える。 やはり、他市の取組において、参考になる部分についてはどんどん取り入れていきながら、本市の特質にあった施策を融合させてよりよい取組を進めていってもらいたいと考える。